

粉好きの系譜 第 19 回

粉もののピンチ

粉ものがピンチである。ここにきて小麦などの値段が高騰している。考えてみれば関西の粉ものも、その大部分が輸入品だ。全国で使われる小麦の 9 割以上が輸入されている。輸入元は、米国、カナダ、豪州。値上がりの原因はいろいろあるようだが、最近流行のバイオエタノールの原料の作付けが増えたのが一つの理由らしい。石油、石炭などの化石燃料は、環境に悪い、資源枯渇が懸念されるなどの理由でそれに代わる燃料への置き換えが検討され始めている。そこで注目されたのがトウモロコシなどの作物だ。これから作られるアルコールがバイオエタノールである。そのしわ寄せで、小麦をはじめとする穀物の栽培が減っているのだという。となれば品薄が予想される。そこへ投機的な動きが加わって、小麦はじめ穀類の値段が上がっているらしい。

豪州などではこれに加えて、近年相次ぐ旱魃によって小麦が取れない年が続いている。そうでなくとも水不足にあえぐ豪州の小麦を、水ではさほど苦労していない日本が多量に買っているのも困った話だ。

このままでは関西庶民の味、粉ものはピンチを迎える。粉ものの魅力の一つはその大衆性にあると私は常々思う。つまり、安くて腹いっぱい食べられ、しかもうまい、の 3 拍子そろっている。その粉ものから、「安い」の要素が抜け落ちるとどうなるか。あるいは粉ものが水っぽくなってはその「うまさ」に障ろうというものだ。

翻って考えれば、つい 40 年ほど前まで、大阪近郊の畑には裏作のムギが植えられていた。その小麦は確かにパンには適さなかったが、お好み焼きやたこ焼きにはどうなのだろう。案外問題なく使えるのではないか。国産の小麦は、もう一つ、高いという理由で敬遠されたが、このまま輸入小麦の値段が上がり続けると差額は小さくなってくる。ここはいつそのこと、思い切って「国産ムギ使用」のお好み焼き、たこ焼きを開発してみてもどうか。それが案外、粉もののピンチを救うよい方法になるかもしれない。